



第42卷 第3号

史学・地理学・考古学

売買契約泥草から見た初期王朝期～アッカード
王朝期の土地所有形態…………… 中 原 与 茂 九 郎 (1)

幕末・明治初年における農民層分解と地主制…… 中 村 哲 (19)

圏構造と地域構造…………… 山 澄 元 (51)
——奈良・会津二盆地を例として——

大化改新と藤原鎌足…………… 横 田 健 一 (76)

漢代の勸農政策…………… 西 村 元 佑 (106)
——財政機構の改革に関連して——

書 評

直木孝次郎著：日本古代国家の構造…………… 井 上 光 貞 (139)

岩生成一著：朱印船貿易史の研究…………… 林 屋 辰 三 郎 (144)

千家尊宣先生還暦記念 神道論文集…………… 柴 田 実 (146)

A. D. Gayer, W. W. Rostow, A. J. Schwartz :
The Growth and Fluctuation
of the British Economy 1790~1850 …………… 合 田 裕 作 (149)

紹 介

井上清・渡部徹編：米騒動の研究 第一・二卷

学会消息・会告・例会予告

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

史學研究會

(1)幕末・明治初年において全国的に農民層の分解が進行しており、そのなかから資本主義的關係が成立してきている。しかしそのような經濟的發展の地域性はかなり大きい。

(2)そのような經濟的發展とともに地主制もかなり形成されてきているが、それは基本的には中農層を基礎として成立している。

(3)しかし、經濟的發展の基本的方向——商品經濟の發展——農民層分解→資本主義の形成——に規定されて地主制にはいろいろの類型が存在する。

本稿はわたしがいままでに分析してきたこの段階におけるブルジョアの發展についての一応の総括であるとともに、それを前提とする地主制研究についての見通しを述べたものである。実証的・理論的に不十分な点を多く含んでいるが、今後は農民層分解と地主制をさらに統一的に把握するために当時における農業経営——とくに農業生産力の具体的在り方——について研究をすすめたい。なお本稿は一四〇枚のものを紙数の制限で約六〇枚に縮小しなければならなかつたので論旨の十分理解できない点が少くないかもし

れないがお許しをえたい。

〔付記〕史料を貸与していただいた京都大学大学院の高沢裕一、酒井一、有泉貞夫の三氏に感謝する。

史学研究会五月例会予告

日時 五月二十三日(土)

場所 京大文学部 第八教室

講師・演題 インドの旅

——インド仏教史跡

調査団帰朝報告——

樋口隆康
梶山雄一

昨年十一月より本年三月まで、印度各地を旅行して調査された印度仏教史跡調査団の帰朝報告です(スライド使用)。なお、六月例会(六月六日・土)は、エクスカージョンを予定しています(場所未定)。

れ、また貧民・流民への公田假与が行なわれた結果、多分に国家的土地所有の性格をもつた田土における民田の経営が展開され、幾多の中・小農民層を、国家権力の支配下に育成保護することができたと考えられる。そしてこのような体制の整備強化への努力は、魏晋後における分裂的・割拠的傾向および豪族勢力の発展によつていよいよ拍車をかけられることとなる。

また前漢の帝室財政機構から蟬脱して、皇帝側近の政務機関となつた後漢の少府においては、このような基本的関係の上に立つ専制君主の枢密機関として、政務の機密をつかさどる尚書の権力が、宰相としていよいよ重くなるとともに、郡県制的支配の最高監察官である御史中丞および司隸校尉が、尚書とともに三独坐と称せられて、宰相につぐ重要な地位をしめることとなつた。そして魏晋以後になると、少府所屬の尚書その他の政務機関はそれぞれ名実ともに独立し、財政機構をもそのなかに吸収して専制権力の中央官制は一段と整備され、唐代における政治体系の前駆的形体ができあがる。このように見ると、魏晋以後、唐にいたつて完成する国家体制は、すでに後漢時代において

その祖形を認めることができるとともに、国家的土地所有にさええられた民田経営の前提も、後漢時代に墾田政策や公田假与政策を通じて推進されたのであり、かくして後漢時代の政治体制が、それ以後に対して果たした役割は実に大きいといわねばならない。

〔附記〕本稿は文部省科学研究費による総合研究「六朝隋唐諸国家の権力機構とその変遷」の成果の一部である。

執筆者紹介

中原与茂九郎	京都大学教授
中村哲	京都大学助手
山澄元	京都大学大学院学生
横田健一	関西大学教授
西村元佑	桃山高校教諭
井上光貞	東京大学助教
林屋辰三郎	立命館大学教授
柴田実	京都大学教授
合田裕作	朱雀高校教諭

京大教授赤松俊秀校註

隔奠記

第一 自寛永十二年
至正保二年

鹿苑寺中興二世鳳林承章の口録である本書は、禪宗・鹿苑寺
(金園)史のみでなく、近世初頭の文化史・社会史の貴重な
史料である。

A5版 七七〇頁・本文5号棒組
詳細な頭註・傍註及び句読点を付す

(近刊)

隔奠記 第二

自正保三年
至慶安三年

発行 鹿苑寺

本書を会員各位に御取次いたします。
送料八〇円 前金にて御申込下さい。

史学研究会
頒価実費二、〇〇〇円
振替京都五一五五番

監修家永三郎 小口偉一 川崎庸之 佐木秋夫

日本宗教史講座

全四巻
A5箱入
価各四五〇円

第一巻 国家と宗教 第三巻 宗教と民衆生活

川崎庸之 黒田俊雄
森 竜吉 藤谷俊雄

柴田 実 北西 弘
竹田聰洲 小口偉一

第二巻 宗教の改革 第四巻 現代の宗教問題

高取正男 家永三郎
田村円澄 笠原一男
村上重良

佐木秋夫 本間唯一
鈴木宗憲 中濃教篤
星野元豊

日本史研究会史料部会編 (予価五〇〇円)

三一書房

〈近刊〉 類聚三代格索引

井ノ口14 平野2 西田2 川島田 白川飯田 北田 京都代 左京区 市都

編集後記

別項にお知らせしましたように、委員会の顔ぶれも新年度ととも
に少しばかり変りました。ながらくやっていると、いつのまにか知
り合つた同志の気やすさで、表向きはスムーズに、しかし深刻な問
題はついわきへ置き去りにしたまま、安易に編集をすませていく傾
向がなきにしもあらず。新しい委員会の発足に際して大いに自戒し
たいところです。

本号も、すぐれた論稿を多数頂くことができました。新緑の季節
を迎えて、史林の新しい芽のさらにすこやかな成長を、皆様ととも
に見守つてゆきたいと思ひます。(朝尾直弘)

史林 (第四二巻 第三号)
一九五九年四月二五日印刷
一九五九年五月二日発行
定価 百円

発行所 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内
史学研究会

印刷所 京都市下京区西七条御所ノ内東町三九
中村印刷株式会社
理事 長 宮崎市定
編集主任 赤松俊秀

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLII No. 3

May, 1959

CONTENTS

Articles :

- Period of the Early Dynasties Seen from
Clay Tablets of Business Contracts; The
Landowning Form in the Period of Akka1..... *Y. Nakahara* (1)
- Dissolution of Peasantry and the Landlord
System from the End of the Shogunate to
the Beginning of *Meiji*..... *S. Nakamura* (19)
- Constructions of Concentric Zone and Region..... *H. Yamazumi* (51)
—*Nara* and *Aizu* (奈良・会津) Basins as example—
- The Reformation of the *Taika* (大化) Era
and *Kamatari Fujiwara* (藤原鎌足) *K. Yokota* (76)
- Policy for Promoting of Agriculture in
the *Han* (漢) Dynasty..... *G. Nishimura* (106)
—on the reformation of financial mechanism—

Book Reviews & news

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan